

令和6年度第1回 浦安市児童センター運営懇談会

- 会議資料 別紙参照
- 開催日時 令和6年7月25日(木)午後6時～7時15分
- 開催場所 東野児童センター 視聴覚室
- 出席者
 - (委員) 瀬尾会長(浦安市小中学校校長会)
 - 牧口委員(民間有識者 浦安市歯科医師会)
 - 池島委員(民間有識者 浦安子ども劇場)
 - 田中委員(民間有識者 よみきかせサークル ルフラン)
 - 金子委員(民間有識者 浦安市母子保健推進員)
 - 村林委員(民間有識者 浦安市母子保健推進員)
 - 濱口委員(浦安市民生委員児童委員協議会)
 - 坂本委員(浦安市青少年相談員連絡協議会)
 - 植草委員(健康こども部保育幼稚園課長)
 - 佐藤委員(健康こども部青少年課長)

- (事務局) 健康こども部児童センター 高梨所長
 - 東野児童センター 井田・片倉・本多
 - 高洲児童センター 斉藤・宇田川・太田・内田

- 開式
 - 自己紹介(委員・事務局)
 - 会長挨拶(瀬尾会長)
 - 議事
 - (1) 令和5年度事業報告
 - (2) 令和6年度事業計画
 - (3) その他
- 閉会

○ 開式 事務局より

本日は委員 12 名のうち、10 名が出席。設置要綱第 7 条第 2 項により会議は成立する。

○ 当懇談会の傍聴希望者なし。

○ 自己紹介

○ 議事

(1) 令和5年度 事業報告について

東野児童センター

子育て支援事業について(P10、11)

赤ちゃんサロン、よちよちタイム、親子ふれあい運動遊び、幼児運動あそび、わくわくクラブなどを行った。今回は母親講座ヨガについて報告する。開催時間は 10:30~11:30 の1時間、保育は 10:15~11:45 の 1 時間 30 分で行った。17 名の応募があり、当日は 15 名の参加となった。

保育は乳児 7 名が図書室、幼児 8 名は遊戯室で行った。

実施後の参加者アンケートでは、少しの時間だったが、一人の時間を過ごせてとてもリフレッシュできた、などがあった。母親講座の目的である「日頃の育児疲れをひと時癒す」子育て支援が達成されたようだ。

健全育成事業について(P7)

こどもの日まつりにおいて、小学校 4 年生から 6 年生までのこどもたちで構成されているキッズスタッフは、スーパーボールすくいを担当した。他にはこいのぼり釣り、工作室で作ったストロー吹き矢で、遊戯室での的あてを行った。ピクニックエリアでは、児童センターでボランティア活動を行っているマミーズフェアリーによるウルトラマン探しを行った。視聴覚室では普段の日曜日と同じく電車あそびを行った。こどもの日ということもあってか小学生の姿も見られた。今後も、遊びを通して子どもたちの成長につながるものを展開していきたい。

高洲児童センター

子育て支援事業について(P18)

今年度 5 月から両児童センターの赤ちゃんサロンで、生後 6 ヶ月をお祝いするイベントとしてハーフバースデーの写真撮影を開始した。双子ちゃんの参加もあり、6 ヶ月になる月を聞き東野と連携し、ハーフバースデーの衣装を借りて 2 人一緒に撮れるようにした。5 月から始めて 7 月までに 18 人の赤ちゃんが写真を撮った。赤ちゃんの成長の記念づくりの一助になればと思う。

親子リトミックは、自由参加の事業で未就園児とその保護者が対象。親子がリズムに合わせて楽しくふれあい、体を動かすことを目的として実施している。フラフープやペープサートも取り入れこどもが飽きない工夫をしている。これからも一人一人の感性を育て、心と体の調和的な発達も促して行く。

同じくプレスクール「にこにこ」、図書館とコラボをして、絵本の読み聞かせを行った。今のお母さんはスマホ、こどもはテレビやタブレット、一緒に居ても時間を共有していないと見受けられる。今後も、読み聞かせの楽しさや親子で時間を共有する大切さを伝えていく。

続いて全館イベント、こどもの日まつりは、静かな一日で68名の来館者だった。しかし、6月15日の県民の日まつりは、こどもの日まつりの4倍の来館者288名だった。一番のヒットは、公民館の入口のデッキで行ったスーパーボールすくい。他には、大きな折り紙でチーバくんを作ったり、チーバくんが児童センターにやって来て、一緒に写真を撮ったり握手をしたりなど、親子のヒーローとなっていた。今回は1カ月前から、公民館のエントランスにポスターを掲示することで周知に力を入れた。デッキを利用してスーパーボールすくいを行なったのも児童センターを知ってもらうことが狙い。これからも児童センターを知ってもらえるよう、周知の方法を広げていく。

◎質疑応答

会 長:事業報告について質問等はないか。

委 員:東野児童センターのキッズスタッフのTシャツはオリジナルなのか？

事務局:黄色いTシャツは児童センターのオリジナルロゴが入っている。利用カードに載っている三つ子ちゃんを背中にプリントしている。職員も同様のTシャツをユニフォームとして着用している。

委 員:告知の方法はどうなっているのか？紙では配布できなくなってきていると聞くので。

事務局:高洲、東野とも「おしらせ」は小学校を通じて配布している。また、館内のポスター、ホームページ、MYうらやすに掲載していただいている。今年から「X」への配信を開始した。

(2) 令和6年度事業計画

東野児童センター事業計画(P20)

4月から7月については既に完了している。

今後のイベントについては、10月にハロウィン in 児センと称した秋まつり、翌1月に新春おめでとうスペシャルとして館内イベントを予定。

今後も、子ども達が楽しめる、成長につながる事業を実施していく。

高洲児童センター事業計画(P21)

毎年両児童センターで行っている「未来のパパママ体験」

例年参加者が少なく、報告できるような状況ではなかったが、今年度については大盛況。東野が15名程度、高洲は13名の応募があった。内容は、講義「ママと赤ちゃんの24時間」を知ることから始まる。3kgある赤ちゃん人形の抱っこ。妊婦ジャケットを着用し大変さを体験する。その後赤ちゃんサロンに合流し、本物の赤ちゃんに触れる体験をする。「未来のパパママ体験」は0～18歳の子どもと保護者が利用できる施設だからこそできる事業として、子どもは「命の尊さ」「大切に育ててもらった親への感謝の気持ち」「赤ちゃんの可愛さ」などを感じることができる。お母さんたちからは、とても素晴らしい事業、我が子が大きくなるまで続け

て欲しいなどの感想がある。

8月のイベント「夏まつり」で新しくチャレンジする「お菓子つり」。釣りざおの長さは、幼児は30cm、小学校低学年は75cm、高学年は150cm。簡単には釣れないよう扇風機で風を送る。

その他は季節を取り入れたイベントなど例年行っているものである。

コロナも明けて利用者も年々増加しているが、コロナ前にはまだまだ至らない。これからもたくさんの方に楽しんでいただけるよう企画を考えていく。

◎質疑応答

会 長:事業計画について質問はないか。

委 員:「未来のパパママ体験」、何回か参加したことがありその時は参加が多かった。その後少なくなり、今年多かった理由はどう考えているのか。

10月に東野ではハロウィンがあるようで、高洲の方はないようだが、10月18日ごろ高洲の自治会連合でハロウィンを毎年やっているが、それに児童センターとして協力するなどのアイデアはないのか。

事務局:「未来のパパママ体験」低迷だった。昨年東野は一般で2名、キッズを招集して成立。高洲は1名だった。今年是一般で東野5名、高洲7名。増えた理由はわからない。告知の方法は変わっていない。当日来てくれた理由を聞いてみる。

10月のハロウィンについては一緒に何かできるのであれば検討したいと思う。

委 員:前回よりもイベントが増えているように思うがコロナ前に戻っているのか。

議事録を見ると、通年のものもあるが毎年変わるのか。団体受け入れは以前もあったのか。利用者数も増加しているようだがどうなのか。

事務局:事業数はコロナで減らした。人数制限が設けられたので事前申込制とし、自由参加はなくした。団体受け入れは以前から行っていたが、コロナ期間は中止としていた。今は、コロナ前と同等になっている。利用者数は、増加に向けて努力しているが、一度遠のいた足はなかなか戻りにくい。日々、多くの方に利用していただけるように努力していきたい。

委 員:色々な企画を工夫していると感動している。このような企画はこどもからの要望か、または職員が考えているのか。どうしたらこんなに楽しい企画が生まれるのか聞きたい。

事務局:東野は基本、職員が提案してイベントを考えて行っている。10月の秋まつりはキッズスタッフが発案、準備、運営をしている。やってみたいことを要望するポストがあり、鬼ごっこなど実現可能なものは行っている。

高洲も同様、意見箱を置いている。鬼ごっこはこどもの要望で、昨年公民館の運動室で実現し、夏まつりイベントの扇風機で風を送るいじわるの考案は職員である。楽しいものを作り上げていくためにこどもの意見を取り入れることや、こどもの目線で考えるようにしている。

会 長:こどもが簡単にお菓子を釣れないイライラに、どこまで堪えられるかということも重要なのかと思う。

委 員:利用者が多い中で水を差すようだが、ケガ・トラブルはあったと思う。資料にはない部分になってしまうが、トラブルに対しての取り組みについてお聞きしたい。

事務局:東野については全くゼロではなく夏休みはトラブルが増える。ケガについては、尖っている部分をなくすなど、リスク回避をしている。ドッジボールで指を骨折するケガなどは起きているが、損害保険で対応している。高洲はここ数年保険を使うような大きなケガはない。ケンカも全く悪いものでなく、こどもの成長には必要という認識で、長年勤めているプレイリーダーの経験を駆使して対応している、最終的には仲直りして欲しいことから、「どうすれば良かったのか?」「こうすれば次は大丈夫だね」など、こどもの成長につなげるよう対応している。

委 員:質問というより、感想になってしまうが、季節に応じた行事を行うゆとりがない家庭が多い。児童センターでイベントをしてもらえることが、季節の行事を楽しむ機会になるだろうと思った。祖父母世代は余裕があるので孫と一緒に参加するのも良いのではと思った。「未来のパパママ体験」応募が多かったという報告があったが男女比はどうか、女子ばかりなのか。

事務局:東野は男子が1人、高洲は女子のみ。妊婦体験は男子こそ体験してほしい。母子保健課からお借りしたジャケットは胸が付いているため男子は嫌がるので、お腹だけのものを児童センターで購入した。今年は東野に1人応募があって良かった。今回の体験で立派なパパになることを願う。

会 長:学校では高齢者体験という形でおもりをつけて歩く体験をするが、妊婦体験としては取り上げないので、是非続けていただけるとありがたい。

委 員:男女比という話が出たので、紹介された事業とは関係ないが、東野で行っている「おやこの広場ほこほこ」のスタッフから聞いた話で、お父さんがひとりでこどもを連れてきたり、夫婦で来る家族も増えている。その際、「お父さん凄いね」などちやほやしないよう心掛けている。こどもにとっても子育ては女性がやるものというイメージになってしまわないよう意識している。というお話を聞いてすばらしいなと思い、ご紹介させていただく。

委 員:キッズスタッフ、元気に楽しそうに活動しているようだが、募集方法は。またどのような活動をしているのか。

事務局:令和5年度から再開した事業である。募集方法は年度の終わりのお知らせで「キッズスタッ

フとして年間のイベントに参加してみませんか？」と掲載した。職員の手伝いや、ハロウィン in 児センの時には、企画、準備、運営まで自分たちで行った。令和6年度はより活動の幅を広げ館内イベント以外、キッズスタッフ企画として7月に「鬼ごっこをしよう」で「マスおに」を行った。とても盛り上がり楽しんでた。今後も続けていく。

委員:私は孫がいるが、若い時は子育てに参加できなかった。自分の年代だと子育てするのは恥ずかしいところがあった。私の診療所でも土曜日は子どもを連れてくるお父さんが多くなった。お母さんは家で休憩、美容院に行く時間などを作っていると言う。「未来のパパママ体験」とても良い事業。子どもが、お母さんは自分が赤ちゃんの時に大変だったことがわかることは、今後の成長に大切なこと。子育ては二人でやる、お母さんに押しつけるのは良くない。女性の多くが仕事をしている、それが大切。男、女じゃなくて、みんなで作っている。それをこの歳になってわかったので、早くわかるためには、このような事業を市が行っているのはとても良いことだと思う。

会長:学校でも学習参観など、ご両親揃って参加されている。もちろんおひとりで参加の方もいらっしゃるが、お父さん率が大変高い。午前中でもたくさんいらっしゃるし、発熱でお迎えの時も結構お父さんがいらっしゃる。コロナになってから、在宅が増えたことも要因の一つなのかも。社会が刻々と変化していくのを学校にいても感じている。

委員:利用実績からみても幼児、保護者が7割近く利用している。例年、浦安市に限らず全国的に少子化の波が来ている。資料14ページ利用者内訳の高洲で中学生が利用している数字を見て驚いている。中学生はどんな事業に魅力を感じているのか。素朴に思ったのでお聞きする。

事務局:公民館で勉強している中学生、高校生が合間に卓球をしに来ている。ひとしきり卓球をしてまた勉強に戻るという利用で、事業への参加ではない。小学生とプレーしてくれることもあるので、とても良いことだと思っている。

会長:小さい頃から通っている児童センターに、高校生になっても通ってくれると嬉しく感じる。

議事終了

(3)その他

事務局:以上をもって、閉会する。

○ 閉会